

質問

在来ソバの 生産振興にもっと力を

村尾明利 議員

町長 看板メニューとして供給できる
生産体制が最重要



問 奥出雲在来ソバの生産振興について、本年、本町のソバの作付面積及び生産量はいくらか。そのうち、在来ソバの作付面積及び生産量は、それに対し、需要はいくら見込まれているか。

答 本町ソバの作付面積は、全体で110ha、うち在来ソバ30ha(横田小ソバ25ha、猿政小ソバ5ha)、生産量は推定全体40t、そのうち在来約8tで、町内需要には応えている。

問 作付面積が増加すればコンバインの能力を超え、刈り取り適期を逃し、収穫量が減少する。適期刈り取りが可能となっているか。

答 長雨の影響や町内作付農地の標高差による登

熟時期の長期化、エコマとの収穫時期の重複、稼働コンバインの不足等で適期刈り取りができていない。

問 本年、不作にもよるが、適期刈り取りを逃し、大幅減収で翌年以降の生産を見直したいといった声を聞く。現状を把握しているか。

答 開発農地の再生事業を展開し、遊休農地の解消に取り組んでいる中、現状を憂慮する事態だ。

問 適期刈り取りに対応するコンバインの増設が急務だがその考えは。

答 適期刈り取りの現状把握や利用状況、機種選定等を含め、実態調査を実施する。県補助事業の導入も検討し実現化を目指したい。

問 在来ソバは一般のソバよりかなり反収が低く、作付奨励事業の助成措置(1kg当たり106円)を設けてはいるが、増反が進まない。

答 現在の助成単価をもっと増やす考えはないか。算定根拠を再度精査

問 在来ソバは、味、香り等、「ソバ通」には抜群の評価を得ている。奥出雲町に入ればいつでも充分堪能できる環境整備が急がれる。本町の特産として町外販売が可能な水準まで早急に振興すべきだ。もっと力を入れる考えは。

答 本町観光の看板メニューでブランド産品である。安定的に供給できる生産体制を維持する事が最重要と考える。本町のソバ店を訪れないと食べられない、差別化した特別の一品として年間を通



し、検定による。

食通が定着、味わいロード

じて提供していく。

問 県内外、近隣の市町村では、いち早く「ソバ」に向けて議会環境を改善し成果を上げている議会も多い(美郷町、出雲市、日南町等)。

答 議会活動でのタブレット導入は、議会のペーパーレス化に留まらず、議員の議会内外の活動範囲が広がり、より活発な議会活動・議会活性化に貢献できるこれからの議員必携のツールと考える。

問 議会資料のペーパーレス化、IT活用(タブレット端末)の議会活用について、町長の所見は。

答 近年、地方議会において、P.C.、タブレット端末の導入が広がっている。ペーパーレス化による環境負荷の軽減や資料作成の省力化等が図られ、保存した過去の議案等、大量の資料が容易に閲覧できる。

問 先進事例の調査を行う等、経費の削減、費用も含めて、今後十分に検討したい。